

平成26年度学校評価

兵庫県立播磨農業高等学校

学校教育目標

- 1 農業教育を中心としたあらゆる教育活動とおして、志を持ち、たくましく生きる力と夢にチャレンジする態度と豊かなこころを育む。
- 2 いのちあるものを育て、汗と土にまみれる体験を重視した教育活動とおして、人権感覚、責任感、勤労観、職業観を育む。
- 3 農業の生産・経営に関する基礎的知識・技術の習得及びその応用的・実践的能力と態度を育む。
- 4 寄宿舎教育とおして、自律心、協調性、責任感を育む。

学校経営の重点

- 1 農業経営者育成の推進
- 2 自主性・実践力の育成
- 3 情操の涵養・たくましく生きる力の育成
- 4 保護者・地域社会・農業関係機関等との連携
- 5 安全教育の推進
- 6 環境の整備

学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- 親が見る自分の子どもの評価と先生方が見る子どもの評価の違いを見るには適している評価だと思う。
- 保護者アンケートの回収率向上が課題。
- アンケートの質問項目について、答えられない部分もいくつかあるように思う。内容の変更や保護者だけの質問などあっていいのではないか。

総合的な学校関係者評価

- 農高祭に初めて行かせていただきました。一生懸命に学生が取り組んでおり、非常に高く評価できます。
- 地域に根ざした学校運営をされており、入試状況を見ても本校は人気がある。先生方の学校への取り組み姿勢は十分に評価できる。ただ学校を志し半ばに去るという現実もあり、その減少により努めてもらいたい。
- 全体的におおむね達成しているといえる結果である。とりよれ取組に向けて、生徒個人をしっかり見ていくと、やるべきことは見えてくるはずなので、目をそむけずに対応していくことが大切である。
- 良い学校になっていると思いますが、生徒の様子は少々規律に欠ける点がある。言葉遣いなども含めて、生徒指導の強化が必要。
- 学校評価は素晴らしいと言える。今後はより一層、「産・官・学」の取組に期待する。

自己評価結果 (A:達成している B:おおむね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況(上段)・改善の方策(下段)	学校関係者評価評価委員会意見
学校運営全般	学校の教育目標達成に向け、協働意識の高揚とPDCAサイクルの定着を図る。	B	各部・学年・学科ごとの重点目標について、中間・年間のまとめを作成し、当該年度の課題と、次年度への課題をそれぞれが確認したうえで明示。学校ホームページや学年通信、学校だよりで学校行事などについて随時報告を行った。地域のイベント活動への参加や報道機関への情報発信を行い、保護者をはじめ地域への学校理解や地域連携を図った。	<ul style="list-style-type: none"> ■入試出願状況を見ると、本校の出願率は抜群であり、十分に情報発信が行われている。今後とも中学校への発信をお願いします。 ■県下広域に及ぶ生徒の居住地や寮生活の生徒も多いため、学校からの情報が家庭まで伝わりにくい。 ■保護者への質問の変更が必要である。 ■本校の取組や運営は素晴らしい。教職員と生徒が一丸となり、各分野で活躍している。
	学校ホームページ等様々な広報活動をおして、学校理解を深める活動を展開するとともに地域との連携・共生に意欲的に取り組む。		今後も、学校ホームページをはじめ、より広範囲な情報発信をスムーズに行えるよう工夫し、地域や県下の中学校に対して本校生徒の活動を広く知ってもらったり、地域からも参加していただけるように努める。	
生徒指導	生徒の理解に基づき、教職員全員が生徒一人ひとりを伸ばす生徒指導を展開する。	B	生徒の内面理解を図るとともに、生徒一人一人に適した生徒指導に努めた。キャンパスカウンセラーや外部講師による研修会を実施し、各教職員の資質向上及び指導法の共有化を図った。	<ul style="list-style-type: none"> ■子供たちが抱えている悩みを、子どもの態度・様子などで大人がいかに迅速に見抜くかがとても大切である。心の乱れが服装に出ることもあるので、校門チェックは欠かさずお願いします。また子供たちの校内生活にも注視して頂きたい。 ■昨今の生徒指導の難しさを感じる。家庭との連携をどうとるかが課題ではないか。 ■制服着用での乱れが少々見られるので、日頃からの注意が必要である。 ■本校の特色を活かし、よく指導されている。
	基本的な生活習慣や規範意識を定着させ、自他ともに大切に学校生活に取り組ませる。		生徒指導の方針やねらいを生徒、保護者及び地域社会に対して今後も継続的に周知する。職員の共通理解を深め、生徒の内面理解に努めるとともに、生徒の自尊感情の育成や規範意識の向上に努める。	
学習指導	教材の精選と指導の工夫を行い、生徒の個に応じた教育の充実を図る。	B	1年次を中心に国語、数学、理科、英語では少人数制を実施し、更に数学では習熟度別クラス編成をすることで基礎基本の定着を図っている。同時に専門教科(農業)においても少人数授業を実施することで、きめ細かい授業を行っている。学習支援が必要な生徒に対しては教員全体で共通理解を図り、ノート等の点検や補充を行うことで理解を深めるように取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■農業系大学、一般大学、専門学校、就職に対して、個に合わせた指導を引き続きお願いしたい。また子どものモチベーションを上げる工夫をお願いします。 ■資格取得をめざす取組は一定の成果は出ている。 ■教員の評価がCの項目について、その時、その時の指導をしっかりしてほしい。 ■学力差の問題を熱心に取り組まれている。
	教師と生徒、保護者の三方向から取組に対する意識の差があるかどうかを捉え、そこから課題を見つける。		専門に関する授業へのより深い理解をさせるための授業形態、及び各学年における教育課程の見直し、また2年次、3年次での選択授業の在り方を次年度に向けて考えていく必要がある。	
進路指導	個に応じた進路実現に向け、情報の提供・相談体制を作る。	B	教育活動全般をおして、キャリア教育の推進を図った。3年生に対しては多様な希望を持つ生徒の進路実現の為に、進路ガイダンスを8月までに集中的に実施すると共にハローワークとも連携を取った。1・2年生に対しては進路意識の向上、とりわけ農業分野への関心を高めるために、進路ガイダンスの充実を図った。	<ul style="list-style-type: none"> ■学校の取組は評価できる。職業観・就労体験などを早くから促すことは大切である。早めのアプローチで、子どもに熟考させる体制をお願いします。 ■農業系の進路が少ないことについて、関心を高めるための進路ガイダンスの充実が評価する。 ■農業系の進学が思ったよりも多く、とても喜ばしい。反面、農業系の就職先が少ないこと、現在の農業経営者に活気がないのだと思われた。 ■社会的な問題であるが、農業に関して就職が少ない。
	キャリア教育の推進を図り、職業観・勤労観を育成する。		農業系大学や大学校への進学者指導に関して、計画的な個別指導の充実をより図り、進学実績を高める必要がある。また就職者に対しては、農業分野への就職先開拓や、卒業後の離職を防ぐためにも、1年次から職業観・勤労観を育成する取組が求められる。	
農業教育	農業教育をおし、生命を尊重する心と安全第一を優先とする意識を向上させる。	A	毎回の時間内総合実習では農場実習の心得の復唱をおこない、安全意識の向上に努めた。栽培飼育管理実習や解体(鶏・豚枝肉)実習、畜魂祭や収穫感謝祭などを通じ、命の教育を実践した。	<ul style="list-style-type: none"> ■農業分野での生徒たちの活躍は素晴らしいの一言である。引き続き尽力をお願いしたい。 ■学校での授業やイベントを通して、一定の成果は得られていると思う。 ■免許・資格取得により一層、力を入れて頂きたい。 ■本校の特色を活かした実践がおこなわれている。
	各種資格・検定試験や各種大会等に参加、挑戦させることにより、生徒一人ひとりの能力を高め、自信を持たせることにより、進路実現につなげる。		資格・検定試験や各種大会等への参加は比較的特定の生徒に限られる傾向がある。多くの生徒が取り組めるよう、カリキュラム内での実施や、進路実現に向けてのキャリア教育の充実を図るとともに、生徒へ積極的に呼びかけた。	
特別活動	本校の教育活動で体得したものを、勤労やボランティア活動(障がい者支援、環境保全)等で実践させる。	B	公募による呼びかけでボランティアに多くの生徒が参加した。地域からの要請も昨年度よりも増えた。クラブ活動でも活躍がみられ、全国大会に馬術部、近畿大会に柔道部が出場した。	<ul style="list-style-type: none"> ■馬術の他にもう一つ名門部活が欲しい。寮の存在をアピールしてみるのはいかがでしょうか。 ■女子の部活動所属率を上げて欲しい。またボランティア活動では多くの生徒が参加できるように努めて欲しい。 ■ボランティア活動への多様性をあげてほしい。 ■ボランティアに対する意識づけが今後の課題。各部活動の活躍は素晴らしい。
	部活動・わかちが会活動・農業クラブ活動等に積極的に取り組ませる。		勤労体験やボランティア活動への参加機会を更に増やし、参加者の取り組みを全生徒にフィードバックする。校内清掃やあいさつ運動を定期的に行い、校内環境の改善に努める。	
寄宿舎教育	寮の日課を確実に果たし、規律ある寮生活の中で自律性・協調性・責任感などの能力を体得させる	A	寮訓「誠和・自律・礼儀」を規範として、その実践に努めた。寄宿舎教育をおして礼節を重んじる態度を育てるとともに、寮生の自主・自律性を育む取組を行った。またキャンパスカウンセラーの活用して、生徒の心のケアにも努めた。	<ul style="list-style-type: none"> ■寮生活を通して、家ではできない経験をし、成長していると感じる。 ■寮生間の人間関係を把握するのは困難かとは思いますが、監視強化をお願いしたい。 ■女子の寮生が多くなっているようですが、自分たちの頃とは違う雰囲気なのだろうと羨ましく思います。規律ある生活を望みます。 ■寮生活の体験は貴重であり、生徒も先生も大変であるが、がんばって頂きたい。
	異年齢集団の構築・成熟をめざし、相互の人間関係の深化を図るとともに、玉丘寮に誇りを持たせ、自己の役割を果たさせる。		継続的な生活指導を実施し、問題行動の未然防止に努めるとともに、寮内環境の整備に努め、生活しやすい潤いのある環境づくりに努めた。寮生が主体となった寮行事をサポートし、寮生主体の運営ができるように努めた。	